

# 未来にはばだけ 希望の九小



## 10月

令和4年9月30日(金)

府中市立府中第九小学校

校長 生井 信太郎

## 「一枚岩」と「サーモン計画」

校長 生井 信太郎

子供たちは10月22日の運動会に向けて練習に余念がありません。楽しみです。

さて、今年度も後半戦に入りました。学校を運営するにあたり校長として大事にしていることを改めて皆様にお伝えします。

特に重視しているものを二つ挙げます。一つは「一枚岩の学校教育」です。学年、学級の別なく多くの大人で子供たちを見ていこう、ということです。少なくとも学年ではクラスの枠を取り払って、学年全体の子供たちを複数の担任で見る、ということをして大事にしています。具体的には、発達段階にもよりますが、一部教科担任制、交換授業、合同授業など、学年全体に多くの教員が関わるダイナミックな教育活動を行っています。例えば、社会科を1組の担任が、理科を2組の担任が両方の学級で授業をするということです。教員の専門性を活かした授業を展開することができますし、それぞれの担任が学年全体に関わることで、学年全ての子供たちの良さや課題を共有することができます。そしてそれらを伸ばしたり解決したりする手立てを子供の姿を元に複数の教員で考えることができます。もちろん専科の教員やふたば、ひばりの教員も直接的間接的にそこに関わっています。学年を越えた取り組みも見られ、子供たちへのメリットは大きいと思います。

もう一つは、地域との連携です。これをさらに推進するためにできることは何か、ずっと考えていたのが「サーモン計画」です。故郷の川に戻ってくるサケのように、卒業していった若者が再び九小に戻ってきて、子供たちに関わってくれるというものです。コロナがあったり、メンバーを集める方法が無かったりでなかなかスタートできなかったのですが、これにめどがついてきました。きっかけは夏に行われた青少年音楽祭です。これに参加するために九小合唱部のOB(中学生から大学生)が20名ほど集まったのです。練習を重ね、音楽祭当日は「九小合唱団サーモン」としてすばらしい歌声を響かせてくれました。そしてこれを発展させて、「九小サーモン」として本校に関わってもらおうという話が進みつつあります。例えば2年生の授業に入って掛け算九九の習熟を補佐する、ICT機器の扱いについてお手伝いしてもらう、体育のダンスの講師をしてもらう、など夢はふくらみます。まずは10月に行われる運動会のお手伝いをしてもらう予定です。九小の卒業生である身近なお兄さんお姉さんが関わってくれる。これも子供たちにとって意義が大きいと考えています。そして、関わってもらった子供たちもいずれ卒業し、九小サーモンとして戻ってくる、そんなサイクルが生まれるといいと思います。いつでも戻ってこられる母校、九小でありたいです。

残りの6カ月、教職員一丸となって子供たちのために力を尽くしてまいります。より一層のご理解とご協力を、どうぞよろしくお願いいたします。